

# 地域住民との協働による自然再生の取り組み

平成26年9月4日

国土交通省 北陸地方整備局 千曲川河川事務所

# 1-① 8月2日「夏休み川遊びin道と川の駅」での協働の取り組み結果

## 2014(H26)年度 信州上田千曲川少年団第3回活動

協力:国土交通省 千曲川河川事務所

# 夏休み川遊びin道と川の駅

みちとかわのえき

## 8月2日(土)

★時間 : 受付 午前9時30分から

活動:午前10時から12時ごろ

★場所 : **道と川の駅(半過)**

(浦野川と千曲川の合流点)

★内容 : 川遊び、水生生物観察、

水質検査(これで夏休みの自由研究もバッチリ!)

★参加費 : 無料 ★保険加入

★定員・申し込み : 定員 30人(ただし、小学1年~3生は保護者と一しょに参加してね。)

参加は以下で申込みまたはE-mail

で申込んでね。

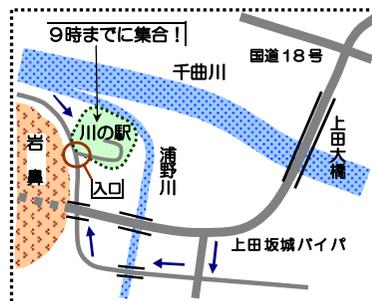
★持ち物 : 着替え、ぬれてもいい運動ぐつ、雨具、ぼうし、水筒、タオル、ぐんて、魚をとる<sup>あみ</sup>網、

★その他 : ① 雨天中止。事前申込者には前日の夜か当日の朝に連絡<sup>連絡</sup>します。

② 当日の連らく

<千曲川少年団 参加申込書<8月2日>>・以下の書いて上記に送ってね。

お名前		学校名	(学年: 年)
住所		保護者の お名前	
電話番号 携帯電話		Eメール 又はFAX	



千曲川中流域自然再生事業を継続的に実施していくためには、地域住民との連携が不可欠である。

このため、千曲川や周辺で実施している市民団体のイベント等を活用し、千曲川の現状や自然再生の必要性について理解して頂く必要がある。

今回、信州上田千曲川少年団のイベントに参加し、水質調査の協力と千曲川中流域自然再生事業の説明を行い、併せてアンケート調査を実施。

アンケート調査では、「礫河原の減少」や「外来種の増加」及び自然再生事業について知っている方は少なかったが、回答者の半数近くが、“取り組みは大切”との回答であった。

### イベント開催状況



“川の駅”を流れる水路



水生生物の採取



パックテストの説明



計測結果のとりまとめ

# 1-② 千曲川中流域自然再生事業説明用 配布チラシ

## 千曲川中流域自然再生事業



粟佐橋から下流を望む

写真出典：千曲川らしさを求めて（平成20年2月 千曲川河川事務所発行）

### 千曲川とは

日本一の大河として知られる信濃川は長野県内では千曲川と呼ばれています。その源は、山梨・埼玉・長野の三県にまたがる甲武信ヶ岳に始まり、新潟市までの367kmを流れています。

<千曲川の自然環境>

多様な気象条件により、生育する植物相は多様で、それらを生息場とする動物相も多岐にわたっています。河原やヨシ原、樹林などはコチドリなどの多くの鳥類が利用しており、水域には瀬や淵にアカザ、ウグイ等が生息し、ワンドやたまりにアブラハヤ等が生息しています。



コチドリ

### 河川環境上問題と自然再生事業

かつての千曲川中流域の河川空間は、瀬や淵のある多様な流れの中に礫（れき）河原が広がり、水際部は生物の良好な生息空間となっていました。しかし、砂利採取等の影響により河床が下がり、このため河原には陸地で見られるような植物が繁茂するようになり、河原ならではの植物は減少してしまいました。

また、ハリエンジュやアレチウリなどの外来種の侵入も在来種減少の一因となっています。

このように、千曲川の河川環境は2つの大きな課題をもっており、この課題に取り組んでいるのが、自然再生事業です。

<千曲川の河川環境上の課題>

- ① 礫河原や水生植物帯の減少による  
生物の生息・生育環境の単調化
- ② 外来種の侵入・拡大による  
在来種の生育環境の悪化

<現在も残っている礫河原>



礫河原



<外来種（アレチウリ）  
に覆われた様子>

千曲川の河川敷に繁茂するハリエンジュ、アレチウリ

### 千曲川河川事務所で取り組んでいること

#### ① 礫河原の再生

目的：礫河原に依存する生物（コチドリ、コアジサシ等）の生息・生育場を再生する。  
方法：樹林化が進行している河岸の掘削により、洪水時に攪乱を受ける場を再生する。



#### ② 外来植物（ハリエンジュ、アレチウリ）対策

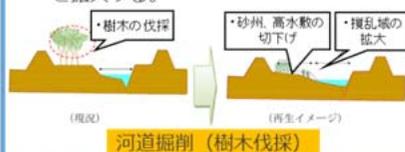
目的：外来種を減少させ、在来生物の生育環境を改善する。  
方法：外来種を駆除する。



除去作業の様子

#### ③ 瀬淵の保全・再生

目的：礫河床に依存する生物（ウグイ等）の生息場を再生する。  
方法：砂州や高水敷等を切り下げ、攪乱域を拡大する。



河道掘削（樹木伐採）

#### ④ 多様な水域・湿地環境の保全・再生

目的：ワンド・たまりに依存する生物（アブラハヤ等）の生息場を再生する。  
方法：（礫河原の再生、瀬淵の保全・再生と同様）

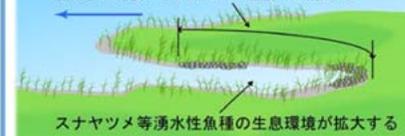


再生したワンド

#### ⑤ 湧水環境の保全・再生

目的：湧水性魚種（スナヤツメ等）の生息環境を保全・再生する。  
方法：ワンド等湧水の湧出箇所の堆積土砂の撤去、必要に応じた石積みを行う。

- ・ワンドの側岸の崩れ、堆積土砂を撤去する
- ・流水の流向により崩れやすい水域の奥部は掘削、拡大し、緩傾斜には必要に応じて、玉石の空積みで補強する



スナヤツメ等湧水性魚種の生息環境が拡大する

#### ⑥ 河川の連続性とエコロジカルネットワークの確保

目的：河川の連続性を確保し、流域一体となったエコロジカルネットワークを形成する。

方法：魚道の設置等、河川の連続性に配慮した河川整備を実施する。



設置した魚道

これらの取組を住民のみなさんと一緒に実施していきたいと考えています。ご協力ください。

千曲川中流域自然再生事業をもっと詳しく知りたい方は・・・

千曲川河川事務所ウェブサイト：  
<http://www.hrr.mlit.go.jp/chikuma/>

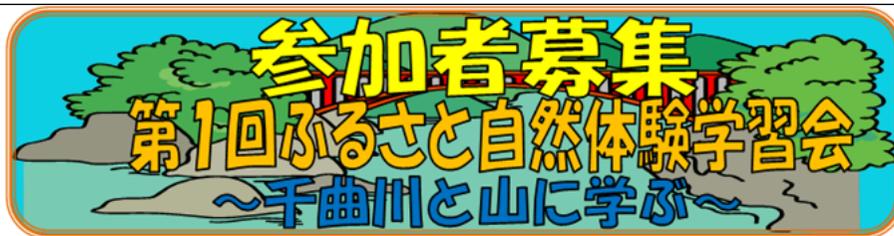


国土交通省 北陸地方整備局  
千曲川河川事務所  
〒380-0903  
長野県長野市鶴賀字峰村74  
電話番号：026(227)9434



## 2. 9月13～14日「第1回ふるさと自然体験学習会」での協力

参加応募チラシ



○期日	9月13日(土)～14日(日) 1泊2日 雨天中止
○場所	千曲市水辺の楽枝親水公園及び自然体験の森宿泊研修施設(大池自然の家)
○参加者	市内小学校児童と保護者の方(児童だけの参加はできません)
○募集人員	先着60名(20組程)両日の参加をお願いします(1日だけの参加はできません)
○参加費	一人2,000円(保険料、夕・朝食、シーツ代、教材費が含まれています)
○日程1日目	9月13日(土)
受付	10:00 大池自然の家(各自集合) 大字八幡2番地620
開会	10:30 開会式
講座(1)	10:45 魚籠り器作り
昼食	11:30 持参したお弁当を食べます
観察(1)	13:00 バスで水辺の楽枝へ移動し観察会 ①水生生物観察と魚籠り器をしかけます・②野鳥観察・③植物観察
移動	15:00 バスで大池自然の家へ移動 ④水質調査
講座(2)	15:30 火を使った簡単なアウトドアでの料理・おやつ作りの実習と試食
自由時間	16:45 自由時間に散歩、マレットゴルフ、木工細工等ができます
夕食	17:45
講座(3)	18:45 千曲川等に関する講義(歴史や性質など千曲川について学ぼう)
入浴	20:00
観察(2)	入浴時間から就寝前まで、天体観望室で自由に星空が見られます
就寝	22:00
○日程2日目	9月14日(日)
起床	6:00
観察(3)	6:15 昆虫観察会 大池自然の家周辺の昆虫観察
朝食	7:15 朝食後に清掃及び荷物整理をし、水辺の楽枝へ移動(個々)
観察(4)	9:15 魚籠り器に入った生物を観察
講座(4)	9:45 ネイチャークラフト(工作)
講座(5)	10:45 魚に触れてみよう
閉会	11:30 解散

※講座内容、日程(時間)は変更になる場合があります

参加申込者は生涯学習課にありますので、電話で参加状況を確認の上

戸倉庁舎 生涯学習課へお越しください。

申込期間8月8日(金)～15日(金)まで 受付時間8:30～17:00

電話026-275-0004(内線6351・6352)

主催:千曲市、千曲市教育委員会

協力:国土交通省北陸地方整備局千曲川河川事務所

「第1回ふるさと自然体験学習会」では、水質調査、ネイチャークラフト及び千曲川等に関する講義について、協力を行う予定。

また、併せてアンケート調査を行い、砂礫河原の減少や外来植物の増加について、地域住民の意見を把握する。

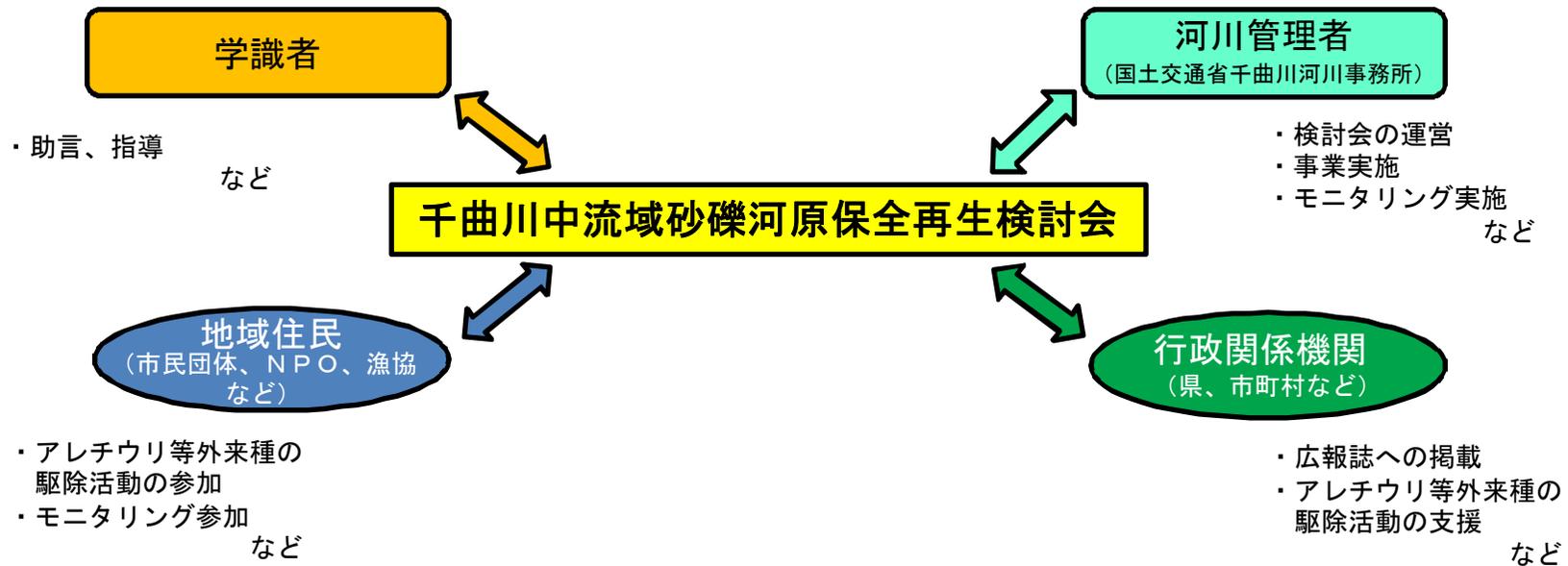
### 3. 今後の地域住民との協働について

#### 地域連携の基本的な考え方

自然環境の保全・再生を実施していくには、地域住民の理解と参加・協力を得ながら、河川管理者をはじめとする関係者、関係機関が連携することが不可欠である。

このためには、調査・計画・施工段階から、モニタリング、維持管理に至るまで一体的、計画的かつ継続的に行うことが必要である。

千曲川では、これまでも地元・学識者・行政の連携を行っており、自然再生事業を進めるうえでも連携を行っていく考えである。



#### 今後の進め方 (案)

- ・自治体等でイベント開催などの情報はありましたらご連絡を頂き、協力等の支援について検討（環境学習）。
- ・アレチウリ等外来植物の駆除活動等の取り組みの推進。